

理事会だより

第3回(第14期)常任理事会

日時：昭和41年8月21日(月)15h~20h30

場所：気象庁電計室

出席者：常任理事 島山, 北岡, 朝倉, 神山, 岸保, 小平, 三宅, 須田(竜), 桜庭, 根本

地方理事 山本, 磯野, 山元

監事 高橋(浩) (順不同)

報告

庶務担当理事(朝倉)より、8月に行われた第14期評議員選挙(8月11日開票)の結果について選挙管理委員長から報告があり、後記の9名が評議員に決定した。

荒川秀俊 神原 健 倉石六郎 柴田淑次 武田京一
中野猿人 仁科伸彦 吉武素二 和達清夫

議決

1. 文部省科学研究費等分科会委員の推薦について

(1名)

従来の委員は本多弘吉氏, 山本義一氏であり、2年任期で、毎年1名づつ替わる制度になっており、山本氏は任期がもう1年あるので、今回は気象学会として気象関係者を推薦することは見合わせるようになった。なお今後、この件で、至急処置をすることが生じた場合は、理事長にその処置を一任することとなった。

2. 気象学会の運営方針について

一柳井提案をめぐって一

(経過) 気象学会のよい運営をはかるためには従来から、理事会、常任理事会、評議員会などで問題ごとに討議され、処理されてきた訳であるが、5月31日附で会員柳井迪雄氏より種々な点の改善提案が出された。常任理事会としては、7月4日、これを検討した結果重要事項も多いので、更に種々な方法で充分検討することにした。その後柳井提案に対して、65名の会員が賛同する旨通知があった(7月15日)常任理事会としては、この提案をまず全国理事会で討議することにしていたので、今回議題として提出したものである。

(決) 学会の運営について柳井提案の各項は勿論全般的に問題を掘り下げて熱心な討議が行われたが、重要事項についてはこの会で決定することは見合わせて、次の段取りで処理することにした。

- (1) 柳井提案は天気に掲げて、一般会員のこれに対する意見も集める必要があり、これに関するシンポジウムを開く。
- (2) 運営問題は定かん改訂に連がるので、常任理事会

としては、次の理事会で、これに関する小委員会を置くくらいまで、問題を煮つめることにする。

(3) 全国理事会を年4回位開き、重要事項を審議することになった。

3. GARP 計画の推進について

学会の当面する重要問題の一つとして、この計画の推進に努めることとし、差当り次のことを決めた。

(1) GARP (Global Atmospheric Research Programme) の推進には、総会の決議が対外的に有効であるから臨時総会に凶ることにし、10月初の札幌の大会で総会を開く。

(2) GARP の計画を推進する一方法として、学会との連絡を密にするとともに関係者が更に努力することになった。

主な討議

参考までに、今回討議された主な事項を記す。

1. 学会運営全般について、特に地方理事からの意見をとり上げて討議した。
2. 理事会の運営について
一部に全国の学会でなく、東京の学会のような感を与えているが、これは改善を要するとの意見があった。これについては全国理事会を頻繁に開けば、ある程度解決される。旅費の支出は、財政上困難であるが、差当り旅費を出さなくても実行した方がよいとの意見があった。
3. 学会活動が不十分であるということについて天気などで、世界の気象学のすう勢などを掲げることも必要であろうという意見があった。

WWW や GARP に関して推進する一つの方法として、理事中の学会議員に大いに努力してもらうほか、地球物理研連大気科学小委員会(長、山本、幹事小倉、委員、正野、小倉、山本、荒川、北岡、細分科幹事、柳井、竹内、田中、岸保、有住)に、更に神山常任理事を追加し、岸保常任理事を常任理事会のこの関係の窓口として連絡を密にする。

GARP に関して学会議員における特別委員会にしよう努力することも大切であるが、簡単でないので、まず海洋、陸水など関係する分野との合同委員会を置いてもらうことが必要であろう。

気象学会から第4部、第4部から学会議員総会にもって行き政府に勧告してもらうように努めることが必要だなどの意見が出て、その方向に努力することになった。